

エスペラント朗詠短歌通信添削（10）

前田茂樹

エスペラント朗詠短歌募集要項

- 1、一人二首まで
- 2、匿名可
- 3、テーマ自由
- 4、日本語で短歌の意味、もしくは原文の日本語の短歌を添える
- 5、あて先 ノーバ・ボーヨ編集部
〒 621-8686 京都府亀岡市天恩郷大本本部内
FAX 0771-25-0061 e-mail officejo@epa.jp
- 6、作品は添削後誌上で発表
- 7、締切り 毎月15日までに送ってください

作品 A

La projekton por
somera infankurso
planas junular' ;
pri temas tero, akvo
danko al la Di-favor' .

<解説> このエスペラント朗詠短歌の通信添削もいつの間にか10回目を数えるにいたっています。応募者の数はまだ限られていますが、毎月、作品を送ってくださる方々は、エスペラント朗詠短歌をよく理解してくださっています。いくつかの表現上あるいは文法上の問題点を除けば、どの作品も朗詠することができるようになりました。このコーナーを担当するものとして、これほど嬉しいことはありません。

さて、この作品も今述べましたように、何不自由なく朗詠することができます。その上でより高みを目指すという意味で、問題点な

どを勉強してまいりましょう。

さて、まず1行目の *la projekto* と3行目の *planas*, つまり *planas la projekton* は、どちらも極めてよく似た意味を持ち、主語+述語としてはあまり見受けられないコンビです。*Projekto* をそのまま残すなら、述語を *fari* にするか、*planas* を活かすなら、*la projekto* を省き、*someran infankurson* を *planas* の直接補語にするほうがよいと思います。

4行目から5行目にかけての表現, *pri temas tero, akvo, danko al la Di-favor'* の *pri* と *temas* の間が離れているのは、多分、*pri temas* のことでタイプミスと思われそうですが、*pri temas* にしても後の *tero, akvo, danko* に対格語尾が必要です。*Temas* なら *temas pri* とならなければならず、この場合、*infankurso* が主語となりますから、*tio* または *ĝi* など代名詞も必要となります。また、*tero, akvo, danko* が同格で置かれていますが、ここは「土、水などのご恩を神様に感謝する」という意味と思われそうですが、この作品の文ではニュアンスの違う表現になってしまいます。

それから冒頭1行目にもどり、*La projekton por* と前置詞が最後に置かれていますが、前置詞句として考えると、前置詞と後の語が離れて置かれるため不自然に感じられるのは否めません。私自身は前置詞 *-de* 以外はできるだけ行の最後に置くのを避けるようにしています (*de* についてもできるだけ最後に置かないように努力しています)。朗詠できるわけですから構わないといえばそれまでですが、違和感がないわけではありません。安易にこの語法を使うと、どうしてもそちらに流されてしまい、よいクオリティーの作品が生まれなくなる可能性があります。エスペラント朗詠短歌は歩みはじめてからまだ歴史も浅く、より昇華させてゆく必要があります。大本芸術の中の一つとしてより美しい作品を生み出してゆくため、皆さまとともに努力してまいりたいと願っています。

参考例

Planas junular’
Someran infankurson,
riĉan je enhav’ ,
kun temo: Danku Dion
pro l’ favor’ de akv’ kaj ter’ .



作品 B

Al karkorein’
okaze de l’ kongreso-
kansajesperant’
promesis mi revidon
en Seulo kun esper’ .

<解説> 一見して「関西エスペラント大会」の表現で、音節が長くつづくため朗詠しにくいような印象を受けるのですが、朗詠してみるとすごく朗詠しやすいことが分かります。多分、作者は朗詠しながら作詞したのでしょう。大切なことです。この作品で一つ問題があるとしたら、この「関西エスペラント大会」の表現です。2行目の kongreso- と3行目の kansajesperat’ をハイフンで結んで、kongreso-kansajesperant’ としています。少し簡潔にする必要があります。普通、第65回関西エスペラント大会は、La 65-a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo と表現しています。ちなみに、関西エスペラント連盟は、Kansaja Ligo de Esperanto-Grupoj。この二つの表現を頭において2行目・3行目の表現を考えてみましょう。

歌の中でこの語を表現するには、どうしても前後の文との関係も見直さなければなりません。このままでは、音節の数と並びから表現しなおすのは難しいと思いますので、2行目の okaze を取り去り en la kongres' kansaja/Esperanta mi として3行目の promesis につなげます。また karkorein' が一見して分かりにくい印象がありますので、1行目を Al la korein' として2行目の頭に aminda と三音節の形容詞を置いて kara の代わりとします。このかたちの場合、aminda のあと mi promesis とつづけ「関西エスペラント大会で」の表現に移ります。3行目の五音節で en kansaj-kongres' 次の4行目の頭にかぶって de Esperanto, つまり en kansaj-kongres' de Esperant' とします。これは私個人の意見であって正しい答えということではありません。ただ、読み手あるいは聞き手ができるだけ読みやすく分かりやすい文章を心がけること、これはエスペラントにおいては大切なことと思っています。

参考例（1）

Al karkorein'
en la kongres' kansaja
Esperanta, mi
promesis la revidon
en Seulo kun esper' .

参考例（2）

Al la korein'
aminda mi promesis
en kansaj-kongres'
de Esperant' revidon
en Seulo kun esper' .